

◆構成(目次)

本編

- 1 はじめに
- 2 調査方法
- 3 各季節の概況
 - 3.1 春季
 - 3.2 夏季
 - 3.3 秋季
 - 3.4 冬季
- 4 年間を通した高濃度出現状況
- 5 高濃度イベントの解析
 - 5.1 (春季)
 - 5.2 (夏季)
 - 5.3 (秋季)
 - 5.4 (冬季)
- 6 発生源寄与の推定
- 7 今後の課題

…次ページ参照

…平成 25 年度報告書の 4.7.1 の部分

…平成 25 年度報告書の 4.7.2 の部分(+平成 26 年度報告書から加える時間値による解析)

…その年の状況によって臨機応変に決めればよいが、各季節1つ、多くても4つを基本として考える

…3あるいは5に関して推定を行う？

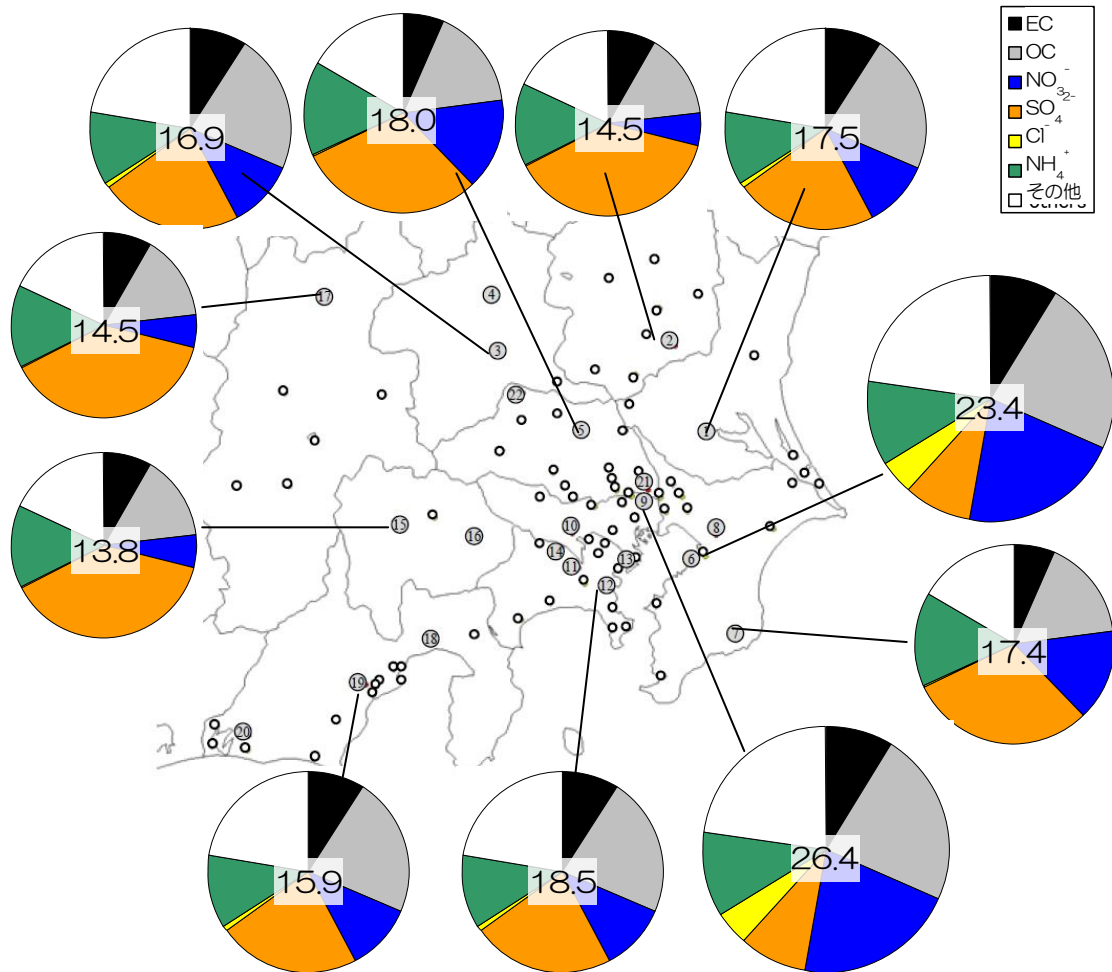
資料編

- 1 試料採取要領
- 2 測定方法及び検出下限・定量下限
- 3 調査期間の常時監視データ …季節平均(2週間)のデータ(→本編3に対応)*
- 4 成分濃度測定結果
- 5 調査地点の概況
- 6 精度管理結果
- 7 年間高濃度事象解析の対象地点
- 8 調査結果の発表及び投稿一覧

* 本編5に対応するデータに関しては、本編5の中で時間値による解析(ガス状物質等の常監項目を含む)で図示などすれば不要

◆「3 各季節の概況」のイメージ

3.1 春季



※円グラフや数値(濃度)は実際を反映したものではない

- 各地点の季節平均(2週間)の濃度と主要成分の割合を算出し、円グラフで地図に示す。(円グラフは濃度によって大きさを変えるなどの工夫もありうる)
- 円グラフを示す地点については、各都県少なくとも1か所は示すが、同一都県内で複数地点が近くあって成分割合が似ていないかなどの様子を各季節で見て、適宜選択する。
- それを参照しながら、濃度レベルや成分割合の特徴、それらの地域的な傾向などについて考察する。
- その際、気象概要についても触れる(降水量が多かった、日照時間が多かった、台風が来た、など)。場合によっては、いくつかの地点のデータを示す。
- フィルターパックの結果(夏季のみ?)もここに含め、合わせて考察する。
- 無機元素成分については、円グラフには合計値として入れるかどうか。個別の元素については、もし季節的・地域的に傾向が見えそうな元素があるようであれば、別図(棒グラフ等)で示す。

◆執筆分担

本編	主担当	副担当
3 各季節の概況		
3.1 春季	①	②
3.2 夏季	③	④
3.3 秋季	⑤	⑥
3.4 冬季	⑦	⑧
4 年間を通した高濃度出現状況	⑨	(⑬)
5 高濃度イベントの解析		
5.1 (春季)	②	①
5.2 (夏季)	④	③
5.3 (秋季)	⑥	⑤
5.4 (冬季)	⑧	⑦
6 発生源寄与の推定	⑩	⑪(⑫)

- ・従来は 16 枠(14～15 席) → 上の案は 20 枠(11～13 席)
- ・主担当については、従来は 8 枠 → 上の案は 10 枠
- ・ただし、従来の 4.7 で 2 枠 → 4 と 5 で 9 枠 (5 についてはイベント数によって減る場合もあり)
- ・発生源寄与推定の対象(3か5か)によっては、6 の負担が少し重くなる？
- ・従来より資料編の負担(幹事県が担当している部分)が重くなるかもしれないので、そこに副担当を入れてはどうか。